

南の風

—第6号—

つい先日まで、季節外れの残暑に困っていましたが、朝晩はずいぶんと寒さを感じるようになってきました。2学期も半ばを迎え、文化祭や重心施設修学旅行といった行事が目白押しでした。一つひとつの行事を通して、子どもたちの経験の幅や興味関心が広がったことと思います。

さて、今月は「病院施設の紹介（肢体不自由児施設）」と、小中学部の特別授業の様子をお伝えします。

肢体不自由児施設の紹介

神奈川県立こども医療センターの肢体不自由児施設「つばさの木」について、施設長（こども医療センター 整形外科部長）の中村直行先生にお話を伺いましたので、ご紹介します。



「つばさの木」は、児童福祉法による医療型障害児入所施設で、昭和45年4月1日に開設されました。上下肢や体幹の変形、機能障害などを持つ18歳未満の子どもたちに対し、医療・生活・教育を3本柱として健全な身体の構築及び成人になった時に必要な知識や社会性を獲得することを目指しています。

令和6年10月1日現在、年齢は5～17歳で、神奈川県全域及び東京都に在住の子どもたち18名が入所しています。平均の入所期間（平均在院日数）は令和6年3月31日の時点で166日となっています。

施設では、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、臨床心理士、薬剤師、栄養士のほか、保育士、児童指導員など多職種の職員が連携して子どもたちが主役となって生活できるように支援しています。集団生活の良さを生かしながら学校教育や治療、リハビリ、生活支援を通じて自信を持って地元に戻り生活ができるように心掛けています。

子どもたちは施設で治療やリハビリを受けながら、日中は保育活動を行ったり学校へ登校したりしており、余暇時には居室でゲームをしたり他の入所児童と遊んだり自宅での生活と同じように過ごしています。また、お誕生会や季節のイベントなど施設の行事にも参加しています。

入所する子どもと保護者の方に特にお伝えしたいことは、入所生活は日常生活から分断されてしまう環境かもしれませんが、施設では学校や友だちとの関係などを職員が丁寧にサポートし、日常生活と大きく変わらないような、ここでしかできない経験を積めるよう支援させていただくということです。

また、施設での生活を通して得ることがあります。子どもたちが大人になって振り返った時に「あの時の経験が重要なファクターになっているな。」とポジティブに解釈してもらえたらと思います。施設の職員も最善を尽くしますので、保護者の方々も「全てのことは無駄ではない。」と思えるよう子どもたちのサポートをお願いします、とのお話を伺いました。

これからも、横浜南支援学校は肢体不自由施設と授業だけでなく、施設行事などを通じて連携していきたいと思っています。

小中学部の特別授業

小中学部の児童生徒にとって、2学期最大の行事は文化祭ですが、文化祭の前の9月にも校外(病院内のスタッフ含む)、校内の講師による特別授業が実施されました。今月号では、その様子をお伝えします。

シェイクアウト訓練

9月に、一斉防災行動訓練として、シェイクアウト訓練が行われました。アラーム音の後、実際に周りのもので頭を守る行動をとる練習をしました。椅子やタタメット等それぞれ工夫して、真剣な面持ちで集中して訓練に臨んでいました。

平常の生活をおくりながらも、いつか起こるかもしれないアクシデントやトラブルに対し「自分たちができること」、「いざというときに備えて意識のどこかに置いておくとよいこと」を改めて考えるきっかけとなったのではないのでしょうか。

インターネット安全教室

本校では、毎年行われている外部講師(文科省協力のもと、情報通信に関連する企業・団体)による出前授業です。スマホやゲーム機からも気軽につなげられるインターネット。いろいろなことをすぐに調べることができるし、友だちとのメールもできて便利ですが・・・

さまざまなネットのトラブルについて説明があり、トラブルに気をつけるための「心にスキをつくらない」ためにはどうしたらよいかを話し合いました。

11月 行事予定

- | | |
|---|---|
| 6日 高等部入学者選抜願書配付(～8日) | 18日 高等部入学者選抜募集期間(～20日) |
| 11日 学習発表展(～22日)
渡り廊下にて展示 | 20日 小2組 健康教育「食育」 |
| 13日 中学部 2学期期末試験(～15日 午前日課)
小1組 健康教育「食育」
小学部 6校時授業 | 21日 重心部門 高等部修学旅行予備日
(10:30 赤レンガ倉庫) |
| | 22日 重心部門 小学部修学旅行予備日
(9:50 シーパラダイス)
小中学部 短縮4校時(成績処理) |
| | 27日 中学部 健康教育「食育」 |

